

うたごよみ 曾於文藝

「題字」

末吉文化協会会員

瀬戸口 淳氏

俳句

末吉俳句会

新緑を映す水面の風に揺れ

古藤 まゆ美

蜷の道幾何学めいて初夏の風

下大田 正子

鶯の朝は睡蓮ひらく朝

瀬戸内 紀子

大隅俳句会

群青のあやめに鯉のばしやと跳ね

大川 満

小満の風さわさわと楠大樹

福村 よう子

亡き夫の植へし四葩(あじさい)に語りかけ

逆瀬川 節子

「おかえり」と言われたやうな若葉風

岩重 みどり

短歌

末吉短歌会

手離すときめたる棲み家の庭隅に
うつせみひとつ草と揺れるる

泊 康

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

沢山買た 葉子しや惜れ

期限切れ 森山 厚香

惜れち 何物も捨せん

高齡者 古川 一幹

惜れち 追つ食ちや任用ね

肥満女房 桐野 奈世

飛走すぎ 地獄き迷れた

惜ね青年 鈴木 一泉

大隅薩摩狂句会

拉致ん家族 突然帰った

夢を見つ 神宮司 素水

見合ん席 話題ゆ作ろち

服く誉めつ 西山 美代子

どん花も 生きれち人を

和ませつ 福元 多喜子

突然出た 鹿児島弁で

場が和ん 境 すやすや

川俣 若

脇丸 洋子

橋口 貞男

入来 レイ子

加塩 秀子

吉崎 フサ子

宝蔵 弘二

平田 美穂子

大隅短歌会

玉椿の赤きを卓に活けおえて
春の一日を癒されてお

強風にとどまる櫻散る櫻
留まる櫻もいづれ散るらん

寒いのは嫌いな息子が東北に
家を建てたり愛には勝てず

財部短歌会

三人の師匠の教へを守りたる
南瓜は膳の花となりたり

聴くたびにときめき覚ゆ「ジョンレノン」
車の中に今日も流れる

何となく違和感ありて足重く
杖をたよりの日々の行動